

近視予防に関する作品

図画

ポスター

標語

作文

～ コンクール ～

作	品	集
---	---	---

# 令和3年度 近視予防に関する作品コンクール要項

趣 旨	近視予防の啓発運動の一環として、本事業により児童生徒の近視予防への意識の高揚を図る。
主 催	福井県学校保健会
後 援	福井県 福井県教育委員会 福井新聞社 FBC 福井テレビジョン放送株式会社 公益財団法人 福井県予防医学協会 北陸電力株式会社 関西電力株式会社

## 【募集内容】

- 1 テーマ 「近視予防」について
- 2 対 象 小・中学校および特別支援学校の児童生徒
- 3 募集作品 図 画（小学校1～3年）画用紙四ツ切（文字なし）  
ポスター（小学校4年～中学生）画用紙四ツ切（文字あり）  
標 語（小学校5年～中学生）A4判たて  
作 文（小学校4年～中学生）原稿用紙400字詰め 2枚程度
- 4 中央審査会 令和3年9月29日(水)、10月5日(火)
- 5 表 彰 【部門】 図画・ポスターの部、標語・作文の部  
【賞】 福井県知事賞 福井県教育委員会賞 福井県学校保健会賞  
福井新聞社賞 FBC賞 福井テレビ賞  
公益財団法人 福井県予防医学協会賞 北陸電力株式会社賞  
関西電力株式会社賞

## 令和3年度 近視予防入賞者一覧

(図画・ポスターの部)

賞状名	所属学校	学年	被表彰者氏名
福井県知事賞	越前町立朝日中学校	1	ふじさき まよ 藤崎 万葉
福井県教育委員会賞	敦賀市立中央小学校	6	かわかつ さねひと 川勝 心人
福井県学校保健会賞	福井市中藤小学校	3	いまお いっしん 今尾 一心
福井県学校保健会賞	県立福井特別支援学校 (中学部)	2	やまね きしょうた 山根木 翔太
福井新聞社賞	敦賀市立栗野中学校	3	とば しゅんすけ 戸羽 俊輔
F B C 賞	鯖江市進徳小学校	4	まつむら ゆうが 松村 優雅
福井テレビ賞	南越前町立今庄小学校	2	つじ れいな 辻 莉名
公益財団法人 福井県予防医学協会賞	越前市国高小学校	5	さいとう りゅうせい 齊藤 琉惺
北陸電力株式会社賞	勝山市立勝山北部中学校	2	よしだ りょうたろう 吉田 凌太郎
関西電力株式会社賞	若狭町立三方小学校	1	なかむら ゆいの 中村 唯乃

## 令和3年度 近視予防入賞者一覧

(標語・作文の部)

賞状名	所属学校	学年	被表彰者氏名
福井県知事賞	坂井市立平章小学校	5	やすい みさき 安居 美咲
福井県教育委員会賞	越前市南中山小学校	4	ほそかわ りくと 細川 陸人
福井県学校保健会賞	越前市万葉中学校	3	おおつか らいち 大塚 礼智
福井新聞社賞	坂井市立明章小学校	6	きむら りな 木村 莉菜
F B C 賞	鯖江市北中山小学校	5	こばやし 小林 ころろ
福井テレビ賞	越前市服間小学校	5	あかがわ こうすけ 赤川 皓亮
公益財団法人 福井県予防医学協会賞	福井市中藤小学校	6	つだ ゆい 津田 優衣
北陸電力株式会社賞	越前市白山小学校	4	おくだ なつき 奥田 夏希
関西電力株式会社賞	若狭町立梅の里小学校	6	くまがい こうすけ 熊谷 康佑



講評 清水 正男 先生

### 福井県知事賞

越前町立朝日中学校 一年 藤崎 万葉

(評) 青空のもと、緑葉美しい木々に囲まれた公園で子どもたちが健康的な時間を過ごしています。しかしながら一方では暗闇の中でただひたすらスマホに向かっていている人がいます。これでは大事な大事な目もたまつたものではありません。日頃からついつやってしまう悪い習慣は極力なくして目を大切にしましょうというキャッチフレーズが画面中央の絵柄で力強く訴えています。近視予防を呼びかけるのにふさわしい魅力的なポスターです。



## 福井県教育委員会賞

敦賀市立中央小学校 六年 川勝 心人

(評) 時計の針は真夜中一時を指しています。それって大丈夫ではありませんね。スマホの画面に虜(とりこ)になって世界中の多くの人々が睡眠時間帯にかなり入り込んでいるのではないのでしょうか。睡眠時間が少なくなると生活のリズムが崩れたり、仕事、勉強、健康面にも強く影響し大変な事態になることもしばしばです。画面の配色も効果的にバツクを薄青暗く塗り、文字、時計、スマホゲームを赤、黄色に着色し、アピール感の強いポスターとなりました。

# 福井県学校保健会賞

福井市中藤小学校 三年 今尾 一心



(評) 目、鼻、口、眉毛だけを画面一杯、大胆に描きました。そして目に良いものを見ている方には赤い大きな○で囲み、良くないものを見ている方には青い大きな×で目をつぶさないように書き込みました。色を工夫し図柄も分かりやすく描いています。目を守り大事にしなくてはならないことをしっかりと訴える迫力満点のポスターとなっています。

# 福井県学校保健会賞

県立福井特別支援学校(中学部) 二年 山根木 翔太



(評) 近視予防に大切な言葉「離れて見よう！」が目飛び込んできます。描かれた愛嬌のあるマスケットキャラクター、テレビ、つぶらなかわい目の目。そして、細かく上手に描き込んだ視力表。どれをとっても大変ていねいに心を込めて描き上げていて、目を守るため大事なことがしみじみと伝わってきます。目の活躍することはたくさんありますが、いつも離れて見ることを大切に守っていれば大丈夫ですよと声かけしてくれる素晴らしいポスターです。

# 福井新聞社賞

敦賀市立粟野中学校 三年

戸羽 俊輔



(評) 「その ディスタンス 正しいの?」のレタリングの素晴らしさ、画面への配列、構成の良さ、そして二人の人物の描写、さすが中学校三年生というより大人顔負けの表現内容になっています。この表現力に色彩面も合わせて色々な分野で能力発揮していかれることを期待したくなる魅力一杯のポスターです。

# FBC賞

鯖江市進徳小学校 四年

松村 優雅



(評) この作品に出合ってドキッしました。緑の美しい木々におおわれた連山。真つ青の空には白い雲と一緒に、なんと輝いた大きな目が画面中央にドカッと浮かんでいるのです。山も空も目も風景も魅力的で素晴らしい風景絵画になっています。そして、目の健康「考えませんか?」という文字標語が入って立派なポスターになりました。

# 福井テレビ賞

南越前町立今庄小学校 二年

辻 莉名



(評) 目も空も雲も木の緑もどれをとっても、自分の見方感じ方で誠実に描いています。色の塗り方も丁寧で心が込もっているのが大変伝わってきます。いつまでもいつまでも見てもあきない素晴らしい絵です。辻さんはきつと、目の健康とか近視にならないためのいいことかなんだろうと一生懸命考えて遠くの空に緑の映った目を描いたのでしょね。

# 公益財団法人 福井県予防医学協会賞

越前市国高小学校 五年

齊藤 琉惺



(評) 「あなたの目、見える？」と齊藤さんはみんなのことを心配しています。画面いっぱいには視力表？が大変きれいに描かれています。そして視力検査にとりくんでいる子がいます。その横顔が必死というか真剣そのもの、見つめる目が魅力的でこのポスター全体を印象深くさせています。隅の方の心を込めて描いた花瓶や目に関する4冊の本もこのポスターの好感度を高めていて清潔感と温かさ、と真剣度の高いポスターができました。

## 北陸電力株式会社賞

勝山市立勝山北部中学校 二年

吉田 凌太朗



(評) 「もうやめて」の黄色の文字の描き方から始まって、色々な考え、工夫を凝らし、いわゆるたくさんさんの発想を巡らして画面作りに頑張りました。スマホ画面には困る目の症状が三つ。充血、視力低下、ドライアイが描かれています。それを目人間が涙を流して支えています。その周りには青色になってくたばった目人間が倒れています。もう大変、危険ですよと訴えています。予防の大切さをしっかりと伝えている立派なポスターとなっています。

## 関西電力株式会社賞

若狭町立三方小学校 一年

中村 唯乃



(評) スマホやゲームを使い始めると、ついつい長時間になってしまい目には大変悪いということを唯乃さんは分かっています。その大変さを表すために目を画面一杯に描きました。目にはスマホ、ゲームがしっかりと映っています。長い時間がたったのでしょう。大粒の涙が流れています。目の健康のためには皆さんしっかりと気をつけましょうと絵を思いっきり描いて訴えた素晴らしい作品です。

# 作文の部

講評 山下 利恵子 先生

## 福井県知事賞

坂井市立平章小学校 五年 安居 美咲

### 自分の目で見られるということ

朝起きて、私にはまずすることがあります。トイレに行くよりも、顔を洗うよりも、朝ご飯を食べるよりも先にすることです。それはめがねをすることです。

小学四年生の夏休みから、めがねは私の体の一部になりました。初めてめがねをかけて見た景色は、自分の目の悪さを忘れてしまいうくらいハッキリ見えて感動したことを覚えています。でも、その時、これから一生、私にはめがねが必要なんだなと思って、かなしくもなりました。

私の目が悪くなってしまったのはどうしてだろうと考えてみました。勉強する時のしせいが悪かったり、暗い部屋で本を読んだり、ゲームを長時間してしまったり、タブレットで動画ばかり見たり、心当たりはたくさんあります。お父さんやお母さんに注意されたこともあります。

「目が悪くなるから、電気をつけなさい。」  
「もう長い時間見てるから、少し休けいなさい。」

そして今の私は、めがねのない生活だと不便で困ることばかりです。めがねをかけていても、不便なことさえあります。例えば、あつあつのラーメンを食べるとき、めがねがくもってしまったり、目の前のラーメンもいっしょに食べている人も見えなくなってしまう。最近ではコロナで一日中マスクをしていて、自分の息でめがねがくもったりします。この前は、自転車でジャリ道を通ったとき、ガタガタしてめがねを落としそうになりました。

そんなことを思い出しているうちにわかったことがあります。それは、

めがねのないことやめがねをかけていることが不便なのではなくて、目が悪くなってしまったことが不便なのだということです。

めがねをかけることになったとき、おばあちゃんが話してくれたことがあります。

「みーちゃん、目は一度悪くなると良くならないし、目は取りかえられないから大事にせなあかんよ。」

今なら、その言葉の意味がよくわかる気がします。私の目は、今私が使っているこの目だけなのです。取りかえられないのです。新品は売っていないのです。

今の私が、私の目にしてあげられることはしせいを良くすること、明るい場所を心がけること、ゲームや動画は時間を決めて見ること。そして、できるだけ外で遊んで、近くのものばかり見ないで遠くを見ること、早くねて目を休ませてあげることだと思います。

これからは、夜めがねを外してふとんに入るとき、ぼんやり見える景色を見て、今日も一日自分の目にやさしくできたかを自分自身に問いかけて、自分の目で見られることに感しゃをしたいと思います。

(評) 「朝起きて一番にすること、それはめがねをすること」という書き出しからその後、めがねをかけた生活の不便なエピソードが魅力的に展開されています。近視になった今だからこそ、「目は取り替えられない」というおばあちゃんの言葉が、切実感を持って胸に刺さります。美咲さんの言うとおり、目の新品は売っていないのです。5年生とは思えない巧みな表現力で、読み手の興味を上手に引きつけています。最後のまとめ方もまるで映像を見ているかのような錯覚に陥りました。布団の中で目をいたわる美咲さんの優しい心根がひしひしとこちらに伝わってきました。

## 福井県教育委員会賞

越前市南中山小学校 四年 細川 陸人

### ふだんの生活で気を付けたいこと

ぼくは、近視ではありません。小さい時から目が悪い人もいれば、大人になってから悪くなる人もいるし、ずっと視力がいい人もいます。あまり意識することはなかったのですが、なぜ近視になるのか考えてみました。

まずぼくは、い伝が関係するのではないかなと思いました。ぼくは六人家族です。その内メガネをかけている人は四人います。中でも、二人は日常的にメガネを必要としています。のこりの二人は車を運転する時だけメガネをかけます。目の悪さ具合も色々あるみたいです。家族の中で目がいいのは、ぼくとひいおばあちゃんだけです。今年九十六才になるひいおばあちゃんは、小さいゴミまでしっかり見つける事が出来ます。

でも、い伝が原因だとしたらおじいちゃんもお母さんも目がいいはずなのに、二人ともメガネを日常的に必要としています。なので、目が悪くなったのは他に何か理由があるのではないかと思ったので聞いてみることにしました。

すると、お母さんからはビックリする答えが返ってきたのです。なんと、子供の頃にメガネ姿にあこがれて、目が悪くなるようにブラウン管テレビを間近で見っていたそうです。そして本当に目が悪くなってしまい、今ではメガネが必要不可欠となってしまったそうです。この話を聞いて、テレビを見る時ははなれて見る事の大事さが分かりました。せっかく目が良い伝子でも、このように、行動などによって悪くなってしまいうのかもしれないと思いました。

そこでぼくは、どういう行動が目によくないのか考えてみる事にしました。まずは、お母さんが言っていた「近くでテレビを見ること」です。テレビの他にスマートフォンやゲームも目が悪くなる原因になると聞いたことがあります。ぼくはテレビを見る時にいつの間にかすごく近くで見ていることがあります。そうするとお母さんが注意してくれますが、自分では夢中になっていてなかなか気づかない事がよくあります。他にも、いつのまにかね転がってゲームをやってしまった事があります。その時も注意をされて体せいを戻すのですが、誰かが気にかけてくれないと、ずっとそのままやってしまうています。全部ではないかもしれませんが、ぼくが近視になっていない理由は家族が見ていてくれているおかげかもしれません。

最後になりますが、近視予防には、テレビやゲームは画面からはなれてみる。暗いところで本を読んだりしない。よい姿勢を心がける。など、自分でもしっかり意識をして、気づかずにやっている時には家族に助けをもらうことが大事だと思いました。ぼくもちょっとメガネに憧れますが、今はおしゃれなだてメガネも沢山あるので、そういうもので楽しみたいと思います。家族を見てみると大変そうなので、視力が悪くならないように自分で出来る事から気をつけていきたいです。

(評) 陸人さんが現在、良い目を維持できているのは、家族の協力のおかげかもしれません。自分で気をつけていても、なかなかルーを徹底するのはむずかしいことです。そんな時、家族の助けを借りることはとても大切です。陸人さんの家族の温かさが伝わってきて、文章を読みながら陸人さんのすばらしい家族に会ってみたいくなりました。96歳のひいおばあちゃんやお母さんのほのぼのとしたお話も、とても効果的に挿入されています。子どもらしい素直な文章に引きつけられました。これからも家族に見守られ、いつまでも良い目でいてほしいです。

# 福井県学校保健会賞

越前市万葉中学校 三年 大塚 礼智

## 替えられない目

私の家族は皆、目が悪く、眼鏡やコンタクトレンズを使っている。私は今年の五月からついにコンタクトレンズデビューをした。私もやっと仲間入りだ。少し大人になった気分だった。

最初は眼科に行って、コンタクトレンズの正しい使い方を教えてもらった。初めて自分でコンタクトをつけてみる時は、目にこんな物を入れているなんて、怖くて仕方がなかった。何度やってもつけられず、嫌になりながら、両目で十分もかかって、やっとつけられた。毎日こんな思いをしてコンタクトをつけたいといけないうんて疲れるし、嫌だなと思ったのだが、そんな気持ちは一瞬で吹き飛んだ。コンタクトをつけた目に写る世界はすごくクリアで、まるで別世界に来てしまった様な、キラキラした景色だった。私は今まで、なんてほやけた、薄暗い世界で生活していたのだろう、眼鏡と違って、コンタクトレンズってすごいなと思った。でも、よく考えてみると、目が悪くなっていなければ、ずっとキラキラした世界にいられたはずなのに、失ってはじめて気がついたのだ。私の大切な視力を。その後、眼科の先生に、近視の現状と予防の話をたっぷり聞かされた。先生の話で、一番心に残ったのは、「自分の眼は、替えがないんだよ。」という言葉だった。帰り際に読んでおくようにと近視の資料を渡された。家に帰って落ち着いてくると、先生が話してくれた事を思い出し、資料に目を通した。

年々、視力の低い子供が増えていて、高校生の七割近く、中学生の六割近く、小学生でも三割以上が視力一・〇未満という現状だ。二〇二〇年、東京都内の中学生は九割が近視。小学三〜四年生で、近視を発症するケ

ースが多いのだが、最近では、低年齢化が進み、早い場合は、六才未満から近視になることもあるみたいだ。近視は早く発症すればするほど、進行の度合いが大きく、将来の失明につながる病気のリスクも高まるようだ。

子どもの視力低下は世界でも社会問題になっている。すでに、世界人口の約三分の一が近視で、特に東アジアの国々で近視が急激に増加している。なんと、六十年で近視人口が四倍。この増え方は、ほとんどパンデミック並みだ。二〇五〇年には、世界の人口の約半数が、近視になる日がくる。近視は、遺伝的要因と環境要因の両方が関係すると言われていたが、近年になって近視が増えているのは、環境による影響が大きいようだ。最近の子供達の生活環境の変化から、近視になりやすい原因に対しての予防は、成長期に少しでも近視を抑える事が重要だが、一番の原因である外遊びの減少は、新型コロナウイルスの影響でさらに悪化し、オンライン学習などで、近視増加に拍車をかけるだろう。私の不安も増加した。

私はコンタクトに魅了され、浮かれていた自分に悲しくなった。なぜなら、近視の最大の原因が一人一人の危機意識の低さだと分かったからだ。

(評) 起承転結により文章が論理的に構成されています。コンタクトレンズデビューで見える世界が変わり、浮かれている自分を起点に文章を展開しています。お医者さんから話を聞いたり、もらった資料に目を通したりして、自分の危機意識の低さに気づいていく過程が詳細に綴られていて中学生らしい文章に仕上がっています。日本の現状や世界の状況にも目を向け、新型コロナウイルスの影響でますます目の環境が悪くなっていることへの危機感をしっかり訴え、問題提起しています。今のこの状況、何とか打破したいものですね。

# 福井新聞社賞

坂井市立明章小学校 六年 木村 莉菜

## 私たちの生活と視力

先日、新聞でコロナ感染症による休校やステイホームがえいきょうして、子どもの視力が下がっているという記事を読んだ。スマホやタブレット、本やマンガなどを見る時間が増えたことが原因ではないかという。ずっと近くを見ていると、ピント調節をするために目に強い負担がかかるそうだ。近くとは三十七センチ以内のきよりで、時間は連続三十分以上、一日二時間以上で視力が下がる危険を高めるらしい。

私の生活をふり返ってみると、学校では長時間続けてではないが授業中に教科書やノートを三十七センチ以内で見ている時がある。最近タブレットやパソコンを使う授業もあるので、姿勢を正しくして、できるだけ三十七センチ以上はなれてみるように心がけたいと思う。家では、学校や塾の宿題をしたり、タブレットを使う。宿題は机で姿勢に気を付けて出来ている。しかし、タブレットは続けて三十分以上使わないように気を付けているが、寝転がって観たりすることもあって、これからは座って観るなど気を付けたい。また、タブレットなどは時間を守って利用したい。

私の学校では、目の運動を行う時間がある。この運動をすると、疲れがとれてすっきりする。休みの日には家族と一緒に家でもやっている。この他に何か目にはいいことはないかを調べてみると、アメリカ眼科学会がすすめている「二十一―二十一―二十ルール」というのがあった。二十分続けて近くを見たら、二十フィート（六メートル）以上はなれたものを、二十秒ながめるというルールだそうだ。このルールなら、タイマーで二十分と二十秒をはかり、どこを見るかを決めれば簡単にできる。私の

部屋で考えてみると、六メートルはかなり遠い距離なので、窓から見えるうらの神社の鳥居がいいと考えた。これから毎日、家で宿題をしたりタブレットを使う時は、忘れずこの「二十一―二十一―二十ルール」をやると思う。

狩猟生活をしていた私たちの祖先は、遠くにいる獲物を見つけ、遠くの敵から身を守るといった生活をしていたので、視力が下がる心配はなかった。視力のことだけなら祖先がうらやましいが、私たちはその時代には戻れない。タブレットやパソコン、本などは現在の私たちの生活を豊かにしてくれる。目にとつては危険な時代になったのかもしれないが、姿勢を正すなどしてきちんとしよりを保ち、使用時間をきちんと決め、目の運動などをして目のケアもすることで、視力が下がらない努力をしていきたい。

（評） 新聞のタイムリーな記事をもとに、限られた枚数の中でしっかりと文章を組み立てて書いていてすばらしいです。コロナ感染症は確実に私たちの生活スタイルを変え、学校や家庭での学習スタイルもタブレットやパソコンの導入で変化してきています。知らず知らずのうちに目を酷使しているのかもしれない。莉菜さんが紹介してくれた「20―20―20ルール」という目の運動はとても新鮮でした。「やってみよう」という気持ちになりました。誰でも簡単にできる目の運動として、ぜひクラスや学校のみんなに伝え広めてほしいです。

# 福井テレビ賞

越前市服間小学校 五年 赤川 皓亮

## ボールをしつかり見つめて

ぼくは、バレーボールを習っています。自分の目でボールを見ようと気をつけています。

ぼくが目を守るために気をつけていることは「なるべくゲームをしな

い」ということです。そのため、ゲームをするときには、タイマーで三十分計ることにしています。タイマーは、ぼくがゲームをしすぎないようにと、お母さんが買ってきてくれました。初めのうちは全くタイマーを使わず、長い時間ゲームをしていたので家の人に注意されました。ぼくはゲームを始めると、夢中になりすぎ時間のことを気にしなくなります。それでタイマーで時間を計るようにしました。三十分計るとピピピと鳴るので気づいて手を止めることができます。でも、その分あまりゲームができなくなるので残念です。

他にも、ゲーム中に必ず一回は遠くを見たりして目を休めています。遠くの緑を見ると、目が少し楽になります。

家の人に聞いたのですが、ぼくはゲームをしているときにまばたきをあまりしていないそうです。自分ではよく分かりません。まばたきをしないでじっと画面を見ると目がかんそうして良くないことは聞いています。だから、お父さんが気づいて注意してくれたときは、手を止めて目を休めるようにしています。

お父さんは他にもユーチューブやテレビのことでも注意してくれます。お父さんにはとにかくたくさん注意されます。でも、お父さんの注意がなかったら、ぼくの目は今よりもっと悪くなっていたかもしれません。

ぼくは、もう一つゲームをするときに、ブルーライトをカットするめがねをかけています。パソコンやスマートフォン、ゲーム機から出ている青い光は、目に良くないと言われています。初めのうちはあまりかけていませんでしたが、最近はゲームをするときにはなるべくかけるようにしています。

次にぼくが目を守るために気をつけさせられていることは、ゲームをしない日、ノーマディアを作ることです。夏休みに入って、ゲームやユーチューブを見る時間が増えました。タイマーを無視してゲームを続けていると、お父さんに取り上げられてしまいます。休みに入って使える時間が増えたことは自分でも分かっているので、がんばってノーマディアを心がけていきたいです。

最後にしているのは、明るいところでゲームをすることです。部屋でするときは必ず部屋の電気を点けています。電気を点けると、ゲームの画面を見ても目がつかれにくくなるのを感じています。

ぼくはこのようなことをして、近視にならないように気をつけています。今のところ視力はとてもいい状態なので、これからも続けていきたいです。そして、めがねもコンタクトもしないで、大好きなバレーボールの試合で、自分の目でアタックを決めたいです。

(評) 子どもらしくとても素直な文章で好感が持てました。目を守るために、タイマーやブルーライトをカットするめがねなど、様々な方策を取り入れていることに感心しました。皓亮さんの目が悪くならないようにという家族の気遣いや意識の高さがすばらしいです。また、素直にそれを受け入れ、実行している皓亮さんも優秀です。予防への真剣な姿勢が伝わってきました。これだけ気をつけていれば、近視になることはありません。自分の目で、好きなバレーボールのアタックをしつかり決めてくださいな。

# 北陸電力株式会社賞

越前市白山小学校 四年 奥田 夏希

## 大好きな事をつづけるために

わたしは本を読むことが好きです。通信教育でわたしだけが使えるタブレットをもらっているのですがそのタブレットで本を読みます。最近「怪盗レッド」という本を読んでいます。レッドは怪盗なのに人を助けることが好きです。一日で二さつ以上読んだこともあります。

先日、学校でし力けんさがありました。そのけっかを見てわたしはおどろきました。昨年とくらべて目がずいぶん悪くなっていたからです。わたしはどうして急に悪くなったのだらうと思いましたが、そういえば、最近カレンダーが見えにくくなっていることを思い出しました。数字がぼおつとぼやけるのです。そして、学校の席で、前のほうになっています。今はメガネをかけてはいないけど、メガネをかけたほうがいいんじゃないかと両親も言います。メガネがいやだと思わないけれど、読書をするときに目がつかれたりしないかなとか、バドミントンをしているので、じゃまにならないのかなとか、自転車に乗る時にもメガネを落としたりしないのかな、などいろいろ心配になります。

これ以上目が悪くなるとこまるので、近しのことについて少し両親に聞いてみました。

近しは遠いものが見えにくくなることです。そのことで、遠くにいる人が分からなかったり、字が見えにくくなったりして、こまることがあります。一度近しになるとおることはむずかしいことも分かりました。だから目が悪くならないように予防することが大事ではないのかと思いました。

本を読んでよく注意されることが、明るいところで読むことや、

時どき目を休めることです。そういったことも予防になると思うし、わたしのタブレットは文字の大きさを変えられるので、できるだけ大きな文字にすれば、目からはなして読書ができて、目にも負たんがかからないかと思えます。む中になって本を読んでいると時間がたつてしまつて両親に心配されることもあります。気がついた時には目を休めたり、遠いところを見てバランスを取ればいいんじゃないかとも思いました。近しになることを予防する工夫がいろいろあるので、それを見つれたり、とりくんでいたりしたいと思います。

大好きな読書をつづけるためには、近視を予防するための毎日のちょっとした心がけが大事だと気付きました。目が悪くなり、本を読むことが大変になるのはとてもこまります。好きなことをつづけるためにも、目を大事にする気持ちをわすれないようにしながら、これからの毎日ですごしたいと思えます。

(評) 本が大好きな夏希さん。でも、読書と視力は背中合わせ、対策をせずに少しでも油断をすると、目への影響は深刻です。学校での出来事、両親から聞いた話、それに対する自分の心情がうまく織り込まれ調和していて、4年生とは思えない文章力に感心しました。大好きな読書が続けるためにも、これ以上目が悪くならないよう予防対策をしっかりとしてほしいです。本の世界で想像力を豊かにふくらませることはすばらしいことです。これからも好きな本をいっぱい読んでください。

## 標語の部

講評 龍野 篤朗 先生

### FBC賞

鯖江市北中山小学校 五年 小林 ころろ

### ゲーム時間

家族で決めた 時間わり

### 公益財団法人 福井県予防医学協会賞

福井市中藤小学校 六年 津田 優衣

### ストップメディア

緑を見よう 三十秒

### 関西電力株式会社賞

若狭町立梅の里小学校 六年 熊谷 康佑

### 外遊び

みんなで楽しく 目を守ろう

(評) コロナ禍で、家庭生活が見直されています。テレビやゲームの時間がとも増えたようです。そんな中、小林さんのお家では、家族みんなでゲームなどの時間を決めたというのです。ワイワイと家族とこころさんたちが相談してゲームの時間を決めました。家族がみんなで、時間を決めることは、近視予防だけでなく、色々な意味でいいことがあります。家族の良さも伝わってきました。

(評) 「ストップ メディア」と端的に言い放つ爽快感があります。そして、緑を見ようと提案しているのですが、その緑を見ている時間はたったの30秒。これならできます。しかも、メディアをストップする時間だつて30秒でいいわけです。30秒我慢することが目を守ることにつながるなんて、近視予防になるなんて、これなら誰だって実行できますよね。

(評) 「予防」とか「守る」というと、なんか肩苦しい感じがしますが、熊谷さんはそれを「楽しく」と言ってくれました。楽しくできるのかなと思うかもしれませんが、「外遊び」をすることでできるんだというのです。グラウンドや原っぱ、河原や近くの里山、そんなところで走り回ったりして遊ぶ楽しさが、目を守るなんて嬉しいですね。

## 【標語・作文の部 全体講評】

今回は特によい作品が多かったです。全体にレベルの向上が感じられました。先生方のご指導もあったのではないかと推察し、感謝申し上げます。言葉の教育は、学力の基本を成します。作文・標語のレベルが上がってきたのはうれしいです。そんなわけでいい作品が多く、評価がかなり大変でした。

作文は、論理的な文章が増えてきました。わかりやすく、読みやすかったです。文章の組み立てがしっかりしていました。1文だけを見ても、主述の照応がはっきりとしていて、わかりやすい文になっていました。そこから表現の迫力が伝わり、最後まで読ませられました。

題材は実体験が書かれているといいですね。切実感があります。実際にあったことをもとにしているのが興味を持てます。おじいちゃんやおばあちゃんを含めて家族の雰囲気伝わるのもいい。家族の協力・助言など具体的です。ひいおばあちゃんが出てきたのもありました。

標語は、やはり五七五だと分かりやすいし、覚えやすいです。リズムがあり、口を突いて出てきます。ハツとさせられたり、えっと思ったりさせられると、いいなあと思いました。そういうのは五七五でなくともいいです。

今回は、コロナ、パソコン、スマホ、タブレットなど現代を象徴する単語がたくさんありました。それらは近視に直結するテーマです。それだけに、説明的すぎる文は興味をひきませんでした。また、作文の場合、ページ数が不足の作品は見劣りします。与えられたページはしっかり使うとよいです。

読みながら、作品を書かれたお子さんはどんな子かなと想像しました。どうか、ご自分の目を大切にしてください。

## 令和3年度 審査員

### 《図画・ポスターの部》

元 福井市藤島中学校 校長

清水 正男 様

北陸電力株式会社福井支店営業部  
営業担当 主査プランナー

東 稔彦 様

北陸電力株式会社福井支店営業部  
営業担当

田中 幸宏 様

### 《標語・作文の部》

元 福井市明新小学校 校長

山下利恵子 様

元 福井市灯明寺中学校 校長

龍野 篤朗 様

令和3年度 近視予防推進事業

近視予防に関する作品

図画 ポスター 標語 作文

～ コンクール ～

表彰式

日時：令和3年10月28日 [木]  
16時～

会場：福井県営体育館